

平成26年度 学校評価実施報告書

(別添様式3)

3 2回目評価

学校名(京都市立鳳徳小学校)

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
						評価日	平成27年3月5日	評価日	平成27年3月11日
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校 評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな学力	わかりやすい授業の創造と言語活動の充実 読書の習慣化 家庭学習の習慣化	・少人数教育の取組 ・全学級の授業研究会 ・ポスター発表会の取組 ・朝読書の定着化 ・学習情報センターとしての図書室の有効活用 ・学校だより、学年だよりによる啓発活動 ・長期休業中の学習会	・ジョイント、プレジョイントプログラムの結果・公開授業等での意見 ・子どもは家庭で読書をしているか ・図書室の利用状況 ・子どもは家庭学習の習慣が身に付いているか	⇒	・言語活動の充実を図る授業改善、長期休業中の学習会、2回のポスター発表会などの取組の結果、プレジョイント、ジョイントプログラムとも、全市平均を上回った。 ・音楽科の研究を通して感性豊かな表現力が育てきた。	・授業研究会の指導案検討会として模擬授業を入れる。 ・ポスター発表会は、発達段階を考えて、3年生からの実施も視野に入れていく。 ・長期休業中の学習会は継続して実施する。 ・調べ学習用図書を充実させる。	⇒	・ポスター発表会の取組は大変よかった。これからの時代に必要な能力なので、継続してほしい。 ・長期休業中の学習会だけでなく、少人数学習などの取組が功を奏している。今後ともきめ細かい指導をしてほしい。 ・学校で活動していただいている図書ボランティアの方に、毎週の読み聞かせだけでなく、学校の図書の整理や本の紹介などをお願いすることも考えられる。 ・少人数による学習の充実を図る。
2	豊かな心	豊かな体験活動の実践 挨拶の習慣化 自律心と責任感の育成を目指した協働活動	・伝統文化や音楽活動を通した学習活動 ・教職員による登校指導 ・児童会による朝のあいさつ運動 ・児童会によるたてわり活動や委員会活動	・学習活動における児童の変容 ・地域行事への参加 ・子どもは進んで挨拶をしている ・子どもは友だちと仲よくしている・子どもはきまりや約束を守っている	⇒	・全校音楽集会の取組は、児童の表現力と関わり合い方を向上させた。また、豊かな感性を育むことができた。 ・教職員、児童会、保護者への啓発の結果、挨拶の取組が一定の成果を出した。 ・児童会を中心としたたてわり活動の中で、規範意識の向上が見られた。	・音楽集会は継続し、更なる質の向上をめざす。同じ曲をじっくり歌うことができるよう、曲数を減らす。 ・全ての児童があいて意識を持って場にに応じた挨拶ができるよう取り組む。 ・たてわり活動を通して責任感や達成感の充実を図る。	⇒	・音楽集会は大変素晴らしい。心温まる取組である。 ・子どもが少なくなってきた中で、異年齢集団の活動は大切である。 ・挨拶は、大人が見本を見せるべき。相手の顔を見て名前を呼んで挨拶すれば子どもも返してくれる。 ・地域のお年寄りの方との交流は相互に効果がある。お年よりは毎回来しみにしていただいているので継続してきたい。 ・総合的な学習の福祉や安全を視点にした取組を継続・発展していく。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立と健康への意識 スポーツへの意欲と体力の向上	・年2回の健やか週間の取組 ・運動部活動の充実	・子どもは早寝早起き等、健康を考えて過ごしている ・マラソン大会の取組状況 ・部活動の取組状況	⇒	・学年が進むにつれ、就寝時刻が遅くなる傾向にある。また、食事と排便と運動のバランスがよくない傾向にある。 ・業間マラソンでは全員が目標に向かって走った。	・家庭への協力を求め、食事と排便と運動のバランスをとる生活習慣の確立を図る。 ・運動に親しむ児童を増やすために、運動部活動の充実を図る。	⇒	・子どもの生活習慣の定着は大人の努力が必要ではないか。 ・遊具の使い方や安全な遊び方についての指導を徹底すること。
4	独自の取組	地域と連携した学び 小中一貫教育(HATT)の充実	・地域に根ざした学習活動の位置付け ・小中合同の授業研究会 ・かがやく丘コンサート ・SSWの小中連携	・学校は地域と連携した取組をしているか・保護者は地域行事に参加しているか ・学校はわかりやすい授業をしているか・研修会での意見	⇒	・全学年が地域と連携した学習活動に取り組んだ。 ・ふれあい活動は、平均20%程度の児童が参加している。地域の協力が大きい。 ・小中連携したSSWのケース会議は今年度初めての取り組みであった。今後も継続が必要である。	・地域の行事に多くの児童が参加できる方法を探る。また、保護者の参加を増やすための工夫が必要である。 ・困りを抱えた子どもを小中連携で見守っていくためにも、小中連携したSSWのケース会議を継続していく。	⇒	・地域との連携を密にし、学年が子どもたちにつけたい力を明確に持って取り組むこと。 ・小中の授業を相互に参観したり子ども同士が交流する機会を増やすこと。 ・毎月実施しているふれあい活動を通して地域と学校の連携を更に深めていく。 ・SSWとSCの支援を受け、小中連携した子どもの支援を行っていく。

4 総括・次年度の課題

・保護者は学校の取組を評価しておられるが、子どもの実際の姿はまだだたと評価が低い。つまり、学校は一生懸命であるが、保護者が願う子どもの姿にはまだ達していないということである。学校は保護者とともに、めざすべき子どもの姿を共有化して、学校がすべきことは何か、家庭できることは何か、地域が担うべき役割は何かを明確にして取組を進めていかなければならない。 ・保護者は、子どもが学校で確かな学力を身に付け、友だちや先生と打ち解け合いながら人間関係を育み生活することを望んでおられる。学級を基本とした学習集団作りや望ましい人間関係作りを進めていかなければならない。 ・子どもは大人を見て育つ。大人が子どもの見本となる行動が取れるよう、学校・家庭・地域に働きかけていかなければならない。 ・小中連携は、学習面だけでなく、家庭状況も含めた生活面においても連携を図り、9年間の連続した働きかけを進めていくことが必要である。
